

第 48 回 知的財産管理技能検定

3 級 学科試験

(はじめに)

すべての問題文の条件設定において、特に断りのない限り、他に特殊な事情がないものとします。また、各問題の選択枝における条件設定は独立したものと考え、同一問題内における他の選択枝には影響しないものとします。

特に日時の指定のない限り、2024年1月1日現在で施行されている法律等に基づいて解答しなさい。

解答は、選択枝ア～ウの中から1つ選びなさい。

問1

ア～ウを比較して、映画の著作物の著作者になり得る者として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 映画の著作物において複製された脚本の著作者
- イ 映画の著作物の全体的形成に創作的に寄与した者
- ウ 映画の著作物の製作に発意と責任を有する者

問2

ア～ウを比較して、新規性を喪失した発明に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許出願前に電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であっても、新規性を喪失した発明とみなされない場合がある。
- イ 特許出願前に外国においてのみ公然知られた発明は、新規性を喪失した発明である。
- ウ 特許出願後、出願公開前に外国においてのみ公然実施された発明は、新規性を喪失した発明である。

問3

ア～ウを比較して、意匠登録出願に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 関連意匠は、その関連意匠の意匠登録出願の日が、本意匠の意匠登録出願の日以後であって、本意匠の意匠権の設定登録の日から十年を経過する日前である場合に限り、意匠登録を受けることができる。
- イ 内装を構成する物品に係る意匠は、内装全体として統一的な美感を起こさせるときは、一意匠として出願をし、意匠登録を受けることができる。
- ウ 意匠に係る物品の形状、模様若しくは色彩がその物品の有する機能に基づいて変化する場合において、その変化の前後にわたるその物品の形状等について意匠登録を受けることができる。

問4

ア～ウを比較して、商標登録を受けることができない商標に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 商品の機能を確保するために不可欠な立体的形状のみからなる商標は、商標登録を受けることはできない。
- イ 自己の周知商標と類似の商標を、その商品等と同一の商品等に使用する場合は、商標登録を受けることはできない。
- ウ 商品の品質の誤認を生ずるおそれがある商標について、商標登録を受けることはできない。

問5

ア～ウを比較して、著作権の存続期間に関する次の文章の空欄〔1〕～〔3〕に入る語句の組合せとして、最も適切と考えられるものはどれか。

著作権は、原則として、著作物の〔1〕時に始まり、著作者の死後70年を経過すると消滅する。但し、映画の著作物については〔2〕（その著作物がその〔3〕以内に公表されなかったときは、その〔3〕）を経過すると消滅する。

- ア 〔1〕＝創作 〔2〕＝公表後50年 〔3〕＝創作後50年
- イ 〔1〕＝完成 〔2〕＝公表後70年 〔3〕＝創作後70年
- ウ 〔1〕＝創作 〔2〕＝公表後70年 〔3〕＝創作後70年

問6

ア～ウを比較して、特許ライセンス、共同開発に関して、独占禁止法において問題となる可能性が低い行為として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許発明に係るライセンスを受けた者に対し、ライセンス技術を用いた製品の販売価格を制限する行為
- イ 共同開発の成果である技術の第三者への実施許諾を制限する行為
- ウ ライセンスを受けた者が開発した改良発明について、ライセンスをした者に当該改良発明に係る権利を帰属させることを義務づける行為

問 7

ア～ウを比較して、特許協力条約（P C T）に基づく国際出願における国際調査に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 国際調査は、明細書及び図面に妥当な考慮を払った上で、請求の範囲に基づいて行われる。
- イ 各国際出願は、国際調査の対象とされる。
- ウ 国際調査は、出願人が所定の期間内に国際調査機関に対して国際調査の請求を行うことにより開始される。

問 8

ア～ウを比較して、著作物を引用するための要件として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 引用される著作物が公表されていること
- イ 引用される著作物の著作権者に通知をすること
- ウ 引用される著作物が営利目的のものでないこと

問 9

ア～ウを比較して、商標権及び地理的表示に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 登録商標は不正に使用されていても、その事実をもって当然に商標権が失効することはない。
- イ 登録された地理的表示が不正に使用されている場合であっても、農林水産大臣がその表示の除去を命じることはできない。
- ウ 商標権の効力は、指定役務の普通名称を普通に用いられる方法で表示する商標に及ぶ。

問 10

ア～ウを比較して、特許協力条約（PCT）に基づく国際出願に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 国際出願日が認められると、各指定国における国内移行手続をした日から、各指定国における正規の国内出願の効果有する。
- イ 国際出願は、優先日から30カ月以内に権利を取得したい国に対して国内移行手続を行う必要がある。
- ウ 国際出願は、国際段階でその出願内容が公開されることはない。

問 11

ア～ウを比較して、意匠法に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 意匠登録出願は、出願日から3年以内に出願審査の請求を行わなかった場合には、取り下げたものとみなされる。
- イ 意匠権は、設定登録日から15年間存続し、更新することができない。
- ウ 秘密意匠としての請求をしていない意匠登録出願であっても、意匠登録前に特許庁から出願公開されることはない。

問 12

ア～ウを比較して、著作物に関する次の文章の空欄 ～ に入る語句の組合せとして、最も適切と考えられるものはどれか。

著作物とは、「をに表現したものであって、するもの」とであると、著作権法に定義されている。

- | | | | |
|---|-----------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------|
| ア | <input type="text" value="1"/> = 思想又は感情 | <input type="text" value="2"/> = 独創的 | <input type="text" value="3"/> = 文化の発展に寄与 |
| イ | <input type="text" value="1"/> = 思想又は心情 | <input type="text" value="2"/> = 創作的 | <input type="text" value="3"/> = 芸術の範囲に属 |
| ウ | <input type="text" value="1"/> = 思想又は感情 | <input type="text" value="2"/> = 創作的 | <input type="text" value="3"/> = 文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属 |

問 1 3

ア～ウを比較して、商標権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 商標権は、指定商品又は指定役務毎に移転することはできない。
- イ 日本国内で継続して3年以上登録商標を指定商品について使用していない場合、不使用取消審判が請求され商標登録が取り消される場合がある。
- ウ 商標権は、商標登録出願の日から10年後に消滅するのが原則であるが、更新登録によって更に10年間存続させることができる。

問 1 4

ア～ウを比較して、不正競争防止法に規定されている不正競争行為として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 他人の商品の形態を模倣した商品を販売する行為
- イ 商品の品質を誤認させるような表示をする行為
- ウ 競争関係にない他人の営業上の信用を害する虚偽の事実を告知する行為

問 1 5

ア～ウを比較して、特許法に規定する無効審決に対する手続に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 東京高等裁判所に訴えを提起することができる。
- イ 東京地方裁判所に訴えを提起することができる。
- ウ 経済産業大臣に不服審判請求をすることができる。

問 16

ア～ウを比較して、著作者人格権に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作者の名誉や声望を害する方法により著作物を利用すると、著作者人格権を侵害する行為とみなされる。
- イ 著作者は、自ら公表した著作物についても、公表権を有する。
- ウ 著作者人格権は、著作者の一身に専属し、譲渡することができない。

問 17

ア～ウを比較して、種苗法における育成者権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 育成者権者は、品種登録を受けている品種（登録品種）及び当該登録品種と形態により明確に区別されない品種を業として利用する権利を専有する。
- イ 育成者権は、品種登録により発生する。
- ウ 農業を営む者が、育成者権者から正式に譲渡された登録品種の種苗を用いて収穫物を得て、この収穫物を自己の農業経営として更に種苗として用いる場合には、育成者権の効力が及ぶ場合はない。

問 18

※不備が認められたため、掲載していません。

問 19

ア～ウを比較して、実用新案権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 実用新案権の存続期間は、出願日から10年をもって終了する。
- イ 実用新案権の存続期間は、設定登録の日から10年をもって終了する。
- ウ 実用新案権の存続期間は、設定登録の日から15年をもって終了する。

問 20

ア～ウを比較して、意匠登録を受けることができる可能性のある意匠として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 物品の機能を確保するために不可欠な形状のみからなる意匠
- イ 意匠登録出願の出願日の3カ月前に自ら日本国内で頒布した刊行物に記載された意匠
- ウ 意匠登録出願の出願日の1カ月前に外国で公知となった他人の意匠に類似する意匠

問 21

ア～ウを比較して、著作権の侵害に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 他人の著作物に、新たな創作性を加えて作品を創作した場合は、表現上の本質的特徴が他人の著作物と同じであっても、著作権の侵害とならない。
- イ 他人の著作物の全体ではなく、一部分だけをそのまま利用して作品を創作した場合、その一部分に創作性がなければ、著作権の侵害とならない。
- ウ 他人の著作物と表現上の本質的特徴を同じくする作品を、たまたま創作してしまった場合であっても、その他人の著作物の存在を知らなかったときは、著作権の侵害とならない。

問 2 2

ア～ウを比較して、特許発明の技術的範囲に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許発明の技術的範囲は、願書に添付した特許請求の範囲及び明細書の記載に基づいて定めなければならない。
- イ 特許発明の技術的範囲は、願書に添付した特許請求の範囲の記載に基づいて定めなければならない。
- ウ 特許発明の技術的範囲は、願書に添付した特許請求の範囲、明細書及び要約書の範囲及び明細書の記載に基づいて定めなければならない。

問 2 3

ア～ウを比較して、著作隣接権の存続期間に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 実演に関する著作隣接権は、その実演家が死亡した日の属する年の翌年から起算して70年を経過したときに消滅する。
- イ レコードに関する著作隣接権は、そのレコード製作者が死亡した日の属する年の翌年から起算して70年を経過したときに消滅する。
- ウ 放送に関する著作隣接権は、その放送が行われた日の属する年の翌年から起算して50年を経過したときに消滅する。

問 2 4

ア～ウを比較して、特許法上の発明者の取扱に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 発明者が発明を完成すると特許を受ける権利が発生する。
- イ 発明者は自然人に限られ、法人が発明者となることはできない。
- ウ 未成年者は発明者となることはできない。

問 2 5

ア～ウを比較して、特許権に係る契約等に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許権者は、内容、地域、期間を限定して他人に通常実施権を許諾することはできない。
- イ 特許権が共有に係るときは、各共有者は、他の共有者の同意を得なくとも、自己の持分を譲渡することができる。
- ウ 特許権に係る契約の相手方以外の者に、当該契約に係る発明と重複する範囲で実施許諾しないことを内容とする契約として、専用実施権を設定する契約以外の方法がある。

問 2 6

ア～ウを比較して、職務著作（プログラムの著作物を除く）の成立要件として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作権登録をすること
- イ 法人等の発意に基づくこと
- ウ 法人等が自社の名義の下に公表すること

問 2 7

ア～ウを比較して、商標登録出願の審査又は手続に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 文字のみから構成される商標について商標登録出願をしたときは、登録前であれば、当該出願に係る商標に図形を追加する補正をすることができる。
- イ 商標登録出願に係る内容は、商標登録されるまでに公開される。
- ウ 商標登録出願については、出願審査の請求をしなくても実体審査が行われる。

問 28

ア～ウを比較して、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS 協定）に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア TRIPS 協定では、意匠については規定されているが、著作権については規定されていない。
- イ TRIPS 協定では、知的所有権に関する紛争解決について規定されている。
- ウ TRIPS 協定では、内国民待遇の原則が採用されている。

問 29

ア～ウを比較して、特許法に規定される出願審査請求の手続に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許出願と同時に出願審査の請求をすることはできない。
- イ 出願人及び利害関係人以外の者は出願審査の請求をすることはできない。
- ウ 出願審査の請求をした後に、出願審査の請求を取り下げることができない。

問 30

ア～ウを比較して、著作権等の侵害に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 出版権者は、出版権を侵害するおそれがある者に対して、侵害の停止又は予防に必要な措置を請求することはできない。
- イ 著作権を侵害した者に対し、著作権者は損害賠償請求に加えて不当利得返還請求をすることができる場合がある。
- ウ 従業者が法人の業務に関し著作権の侵害をした場合、従業者のみならずその法人も罰金刑が科される場合がある。

【第48回知的財産管理技能検定】

【3級学科】

番号 正解

問1	イ
問2	ウ
問3	ア
問4	イ
問5	ウ
問6	イ
問7	ウ
問8	ア
問9	ア
問10	イ
問11	ウ
問12	ウ
問13	イ
問14	ウ
問15	ア
問16	イ
問17	イ
問18	※
問19	ア
問20	イ
問21	ア
問22	イ
問23	ウ
問24	ウ
問25	ウ
問26	ア
問27	ア
問28	ア
問29	ウ
問30	ア

※検証の結果、誤記により問題不成立と判断したため、
無解答を含め、全ての解答を正答として採点します。